



山あたり日

学校ホームページ <http://www.higashikurume-school01.jp/~minami-e/>

令和7年度学校だより
令和7年11月29日
東久留米市立南町小学校
校長 白井 美佳
TEL 042(461)2662

😊😊😊挨拶行き交う、笑顔あふれる楽しい南町小学校😊😊😊



学校ホームページ

「許す」ということ

副校長 平田 由布

「許す」という言葉があります。この言葉の語源は、「緩(ゆる)ます」という言葉にあると言われています。ピンと張り詰めている状態から、ふっと力を抜く…というイメージからきているそうです。

6年生が、10月に人権教育の一環として、ハンセン病資料館に見学に行きました。かつて、ハンセン病の患者やその家族が、国の間違った対策が原因で、社会的な偏見と差別にさらされたことを学びました。この差別の解消運動に力を尽くした平沢保治さんは、自身も激しい偏見や差別にあった経験をもちながら、小学生に向けて、以下のような発言をしています。

私たちは、うらみをうらみで返して、“あの人は悪い人だ”“だからやっつけちゃおう”とか、また相手も“あれにやっつけられたんだから、私も僕もやっつけてやろう”とか、そういう争いをしている未来は開けない。許してあげる、ありがとうという思いが出来るのが、人間であります。

～国立ハンセン病資料館 HP 内資料より～

何もかもを奪われ、誰よりも怒ってよい立場でありながら、「許す」という心で生きる姿は、何よりの強さを感じます。非暴力不服従を掲げ、インド独立運動を主導した偉人、マハトマ・ガンジーも、「弱い者ほど相手を許すことができない。許すということは強さの証だ。」という言葉を残しています。そして、自らが凶弾に倒れたその瞬間も、額に手を当ててこの世を去ったそうです(“額に手を当てる”という動作が、「あなたを許す」という意味を表すという説あり)。

学校で生活していると、子供たち同士の関係の中で、相手を「許す」ために、いかに優しく強い心が必要であるかということがよく見えます。それは、本来「許す」ということは、相手の対応次第で決めることではなく、自分の中で相手を許容するかを自分に問う行為だからです。それは、とても難しいことだと思います。だからこそ、我々教員は、子供たちからゆっくり話を聴き、心の中の張り詰めたものを「緩ます」ことで、子供たちの「許す」強さが育つと考えています。

「許す」は英語では「forgive」と記します。これは、「for(完全に)」+「give(与える)」という意味であるということです。人間は、与えられた者はもちろん、与えた者も喜びを得ることのできる生き物です。許した者も、「許す」ことにより、怒りや恨みにとらわれることなく、おだやかに生活することができることでしょう。学校が、互いに与え合うことのできる場所であるよう、子供たちを育ててまいります。

12月の生活目標

○掃除を丁寧にしよう。 ○寒くても外で元気に遊ぼう。

いよいよ今年も残り1ヶ月となりました。今年お世話になった教室や廊下など、感謝の気持ちをこめてきれいに掃除をしましょう。きれいになった学校で、新しい年を迎えられるといいですね。

寒い日が増えてきました。中でも、外で元気に遊べる子は、体が丈夫になり、体の調子もよくなって、けがや病気を防ぐことができます。たくさん外で遊びましょう。そして、外から帰ってきた時の、手洗いうがいも忘れずにしましょう。